

岩手県教育委員会

WEB フォトニュース



発行：岩手県教育委員会事務局教育企画室

平成29年2月

■高橋嘉行教育長 挨拶



(高橋嘉行教育長)

東日本大震災津波の発生から間もなく6年を迎えようとしています。6年という歳月は、大震災直後の4月に大混乱の中で、小学校に入学した児童が卒業を迎え、中学校に入学した生徒は高校を卒業し、進学や就職でそれぞれの新たな社会へと巣立つ時間の長さであります。

被災地では、復興に向けた歩みが進展し、元気に学校生活を送る児童生徒がいる一方で、長期化する仮設住宅での生活や校庭が十分に使えないなど、未だ様々な困難や制約を受けている子どもたちもおります。昨年8月の台風第10号災害への対応も含め、被災地における復旧・復興の取組をより一層力強く進めていかなければならないと考えております。

岩手県教育委員会では、現在策定中の第3期復興実施計画に基づき、引き続き、学びの場の復興に向けて全力で取り組むとともに、「人を育む教育は社会形成の礎である」という認識の下に、いわて県民計画第3期アクションプランや岩手県ふるさと振興総合戦略に基づき、「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成に向け、現下の課題に適切に対応しつつ、中長期的な展望も見据えながら、学校教育、生涯学習などを推進していくこととしております。

平成29年度においては特に、知事部局における文化スポーツ部の設置を機に、県教育委員会においても、これまで以上に学校教育の充実注力する体制とするため、事務局本庁組織を現行の2室3課体制から1室5課体制に再編し、学校教育の充実と切れ目のない学びの保障などに取り組んで参ります。

また、「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」のレガシーを継承していくため、文化・スポーツの振興の基盤となる学校教育における文化芸術活動や学校体育の振興にもこれまで以上に取り組んで参ります。

学校教育においては、岩手の子どもたちが、変化の激しい社会を生き抜いていく力を身に付けていくため、社会的に自立していく基礎をしっかりと培うとともに、一人ひとりの適性や進路希望などに応じた能力を最大限に伸ばしていくことが重要です。

児童生徒の学力向上については、「わかる授業」を推進し、家庭学習の充実にも取り組むとともに、平成32年度から段階的に導入される「新しい学習指導要領」の実施に向け、各学校等への改訂内容の周知と併せ、一部教科の先行実施も視野に、その導入に万全を期して参ります。また、新たに35人学級を中学校3年生にも拡充して中学校全学年に少人数学級を導入し、思春期を迎え不安定な年代における学習指導や生徒指導の充実を図って参ります。

豊かな心を育む教育の推進については、児童生徒一人ひとりが自他の生命いのちと他者の人権を尊重し、大事にすることを基軸に据えた教育を推進するとともに、いじめや学校不適応の未然防止、早期発見・早期対応のため、引き続き、各学校における組織的な対応の強化に取り組んで参ります。

健やかな体を育む教育の推進については、「希望郷いわて元気・体カアップ60運動ロコモ」の一層の定着を図るとともに、児童生徒の望ましい生活習慣の確立や肥満の予防など、学校・家庭・関係機関の連携による健康教育の推進などにも努めて参ります。

岩手の子どもたちが、急速に変容するこれからの時代をしっかりと生き抜いていく力を身に付けていくことができるように、今後、より一層、教職員を始め学校関係者の皆様と力を合わせ、また、地域の皆様の御理解と御協力もいただきながら、岩手の教育の復興と発展に向けて全力で取り組んで参ります。

～岩手の教育復興への全国からの御支援に感謝いたします～

■第2回総合教育会議が開催されました

平成28年12月19日(月)、平成28年度第2回総合教育会議が県庁で開催されました。会議では、岩手の将来を担う子どもたちにとって、より良い教育環境を作っていくため、希望郷いわて国体後の競技力向上・スポーツ振興などをテーマとして意見交換が行われました。



(意見交換をする教育委員と達増知事)

■全国高等学校文芸コンクールで最優秀賞を受賞した盛岡第三高校、盛岡第四高校、花巻北高校が教育長を表敬訪問しました

平成28年12月20日(火)、第31回全国高等学校文芸コンクールで最優秀賞、文部科学大臣賞を受賞した盛岡第三高校、盛岡第四高校、花巻北高校の文芸部の皆さんが高橋教育長を表敬訪問しました。



(左から、花巻北高校 長畑七海さん、盛岡第四高校 土谷映里さん、盛岡第三高校 佐藤薫乃さんと高橋教育長)

同コンクールでは、盛岡第三高校3年佐藤薫乃さんが小説部門で最優秀賞・文部科学大臣賞、盛岡第四高校文芸部が文芸部誌部門で最優秀賞・文部科学大臣賞、花巻北高校3年長畑七海さんが短歌部門で最優秀賞をそれぞれ受賞しました。

■全日本ジュニアスピードスケート選手権大会で優勝した盛岡工業高校の熊谷萌選手が教育長を表敬訪問しました

2月2日(木)、JOCジュニアオリンピックカップ第40回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会の女子500mで優勝した盛岡工業高校1年熊谷萌選手が高橋教育長を表敬訪問しました。



(高橋教育長と記念撮影する盛岡工業高校 熊谷萌選手)

熊谷選手は「ながの銀嶺国体」のスピードスケート競技少年女子500mでも見事優勝を果たしました。

■選抜高校野球大会に出場する盛岡大学附属高校、不来方高校が教育長を表敬訪問しました

2月6日(月)、第89回選抜高等学校野球大会に出場する盛岡大学附属高校、不来方高校が高橋教育長を表敬訪問しました。同大会への2校出場は岩手県勢初の快挙であり、盛岡大学附属高校の同大会への出場は4年ぶり4回目、不来方高校の出場は春夏通じて初となります。



(高橋教育長(中央)と記念撮影する、不来方高校 小比類巻圭汰主将(左)、盛岡大学附属高校 比嘉賢伸主将(右))

同大会は3月19日(日)から開幕し、「東北・岩手の代表」の盛岡大学附属高校と、「21世紀枠」で出場する不来方高校の活躍が期待されます。

■IPPO IPPO NIPPON プロジェクトへ知事、教育長が感謝状等を贈呈しました

平成23年10月から5年にわたり東日本大震災津波の被災地の県立高校へ実習機材等を寄贈していただいた公益社団法人経済同友会による IPPO IPPO NIPPON プロジェクト（共同委員長 小林喜光代表幹事ほか）に対し、2月3日（金）、達増知事及び高橋教育長から感謝状と各高校からの感謝の品を贈呈しました。



（小林代表幹事へ感謝状を贈呈する達増知事）

達増知事は、「5年間にわたる息の長い御支援を頂戴したことに重ねて感謝を申し上げるとともに、岩手県としても生徒たちが将来、岩手で活躍できるよう、東日本大震災からの復興に県民一丸となって取り組んでまいります。」と挨拶しました。



（県立高校からの感謝の品を前に小林代表幹事らとの記念撮影）

■アジア自転車競技選手権大会、アジアジュニア自転車競技選手権大会で優勝した紫波総合高校の中野慎詞選手が教育長を表敬訪問しました

2月17日（金）、第37回アジア自転車競技選手権大会、第24回アジアジュニア自転車競技選手権大会のジュニア男子チームスプリントで優勝した紫波総合高校2年中野慎詞選手が高橋教育長を表敬訪問

しました。



（高橋教育長と記念撮影する紫波総合高校 中野慎詞選手）

■「ながの銀嶺国体」で岩手県が天皇杯第4位を獲得しました

第72回国民体育大会冬季大会「ながの銀嶺国体」が開催され、岩手県は、昨年の「希望郷いわて国体」で高まった競技力をレガシーとして継承し、天皇杯順位（男女総合成績）第4位・175点を獲得しました。冬季大会3競技においては、30種目で入賞を果たし、優勝は5種目・4人に及びました。

競技、種別、種目	優勝者
スピードスケート 成年男子 1,500m	渡部 知也 (株)シリウス
スピードスケート 成年男子 5,000m	
スピードスケート 少年女子 500m	熊谷 萌 (盛岡工業高校)
スキー 成年女子A クロスカンントリー (クラシカル)	土屋 正恵 (日本大学)
スキー 成年男子B スペシャルジャンプ	永井 健弘 (盛岡市役所)



（菊池教育次長とスペシャルジャンプで2連覇した永井健弘選手）

御意見・お問い合わせはこちらまで
 〒020-8570 岩手県教育委員会事務局教育企画室
 TEL: 019-629-6106 E-mail: DB0001@pref.iwate.jp